

感染症についてのお知らせ

墨田区保健所 保健予防課 感染症係 区役所 3 階
電話 03-5608-6191(直通) FAX 03-5608-6507

令和6年
9月号



東京都内の感染症流行情報

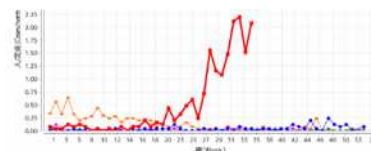
出典：東京都感染症情報センター「東京都感染症発生動向調査週報」

第35週（2024年8月26日から9月1日）の定点あたり報告数

・マイコプラズマ肺炎

東京都 2.08人/週（前週1.52人/週）
墨田区 10.00人/週（前週6.00人/週）
葛飾区 9.00人/週（前週3.00人/週）

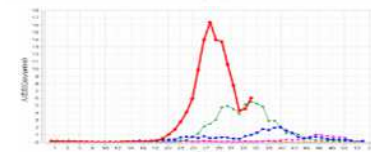
⇒区では大幅な増加傾向がみられています。
動向に注意が必要です。



・手足口病

東京都 6.04人/週（前週4.54人/週）
墨田区 5.50人/週（前週2.63人/週）

⇒流行のピークは一旦過ぎましたが、都・区ともに警戒レベルを超えた流行が続いています。



2020.1～ 2021.1～ 2022.1～ 2023.1～ 2024.1～

(C)2002-2024 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

マイコプラズマ肺炎に注意が必要です！

出典：東京都感染症情報センター
「マイコプラズマ肺炎」

▶マイコプラズマ肺炎ってなに？

細胞に寄生する細菌であるマイコプラズマ・ニューモニアによる感染症です。
感染経路は、咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる病原体を吸い込むことで感染する飛沫感染、病原体が付着した手で口や鼻に触れる接触感染です。

▶どんな症状がでるの？

発熱、全身倦怠感、頭痛などの初発症状が現れた3～5日後に乾いた咳がみられます。
経過にしたがって咳は徐々にひどくなり、解熱後も3～4週間程度続きます。重症化することや、無菌性髄膜炎、脳炎などの中枢神経系症状、中耳炎などの合併症がみられることもあります。

▶どうやって予防するの？



風邪によく似た症状がでるマイコプラズマ肺炎ですが、風邪とはちがい、治療には抗菌薬が使われます。

潜伏期間が2～3週間と比較的長いことから、できる限り早く診断し悪化する前に抗菌薬による治療を開始することが重要です。



腸管出血性大腸菌感染症が流行しています！

出典：墨田区HP「すみだこの部屋」

感染原因は、ベロ毒素を産生する大腸菌（O157、O26、O111など）に汚染された肉などの食品を摂取することです。お肉を食べる際には、下記の4つのことに注意しましょう。

- ①お肉は、中心部も赤い部分がなくなるまでよく焼きましょう。
- ②生肉に触れた野菜も、よく焼いて食べましょう。
- ③生肉を焼くときは、トングを使いましょう。
- ④焼きあがった肉を取る・食べるときは、トングではなく箸を使いましょう。



厚生労働省では、毎年9月24日から30日までを「結核予防週間」として、結核予防に関する普及啓発などを行ってきましたが、令和6年度からは同期間を「結核・呼吸器感染症予防週間」として実施します。結核による死亡者数は、日本においては減少傾向にありますが世界では毎年100万人以上の死亡者があり結核のパンデミックが続いています。また、1918年～1919年に流行したスペイン風邪から新型コロナウイルス感染症まで、20世紀以降のパンデミックは全て「呼吸器感染症」が原因となっています。「結核・呼吸器感染症予防週間」では、マスク着用を含む咳エチケット、手洗い、換気等の基本的感染対策や予防接種の重要性等、呼吸器感染症に関する知識の普及啓発を図っていきます。

▶結核ってどんな病気？

結核菌によって発生する、日本の主要な呼吸器感染症の一つです。現在でも、**全国で約1万人、東京都でも約1千500人**が毎年新たに報告されています。結核は誰でもかかる可能性があり、適切な治療により治すことができる病気です。

▶墨田区の発生状況は？

墨田区での結核罹患率は年々減少傾向にありますが、下のグラフのように全国・東京都よりも高い値で推移しています。



▶どうやって感染するの？

結核菌を排出している患者がくしゃみや咳をしたときに、空気中に飛び散った結核菌を吸い込むことで感染します。

結核菌を吸い込んでも、100%必ず感染するというわけではありません。多くの場合は、結核菌が体の中に入っても体の持つ抵抗力により追い出されます。



▶予防するためには？

下記のような、身体に良い生活習慣を心がけて免疫力を高める生活を心がけましょう。

- (1) 規則正しい生活
- (2) 十分な睡眠
- (3) 煙草を吸わない
- (4) バランスの良い食事
- (5) 適度な運動



▶早期発見と早期治療が重要です

年に1度は定期健診を受けましょう

学校健診や職場健診、特定健診などで年に1回、必ず胸部エックス線検査を受けましょう。もし、再検査が必要となった場合は、症状がなくても必ず精密検査を受けましょう。

下記のような症状は、結核の注意症状です。2週間以上続く場合には、早めに受診をしましょう。

